

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立香簀小学校の結果

～分析から見てきた成果・課題と今後の取組について～

区 名	西淀川区
学 校 名	大阪市立香簀小学校
学 校 長 名	早瀬 太裕

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和8年4月に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・ 国語
- ・ 算数

(2) 質問調査

- ・ 児童に対する調査
- ・ 学校に対する調査

3 調査の対象

- ・ 国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・ 大阪市立香簀小学校では、第6学年 24名

令和8年度「全国学力・学習状況調査」大阪市内香簾小学校の結果概要

本校の結果について、平均正答率でみると国語・算数ともに大阪市・全国平均を超えることはできなかったが、大きな差は見られなかった。ただし、平均無解答率においては、国語・算数ともに大阪市・全国平均よりもやや高い結果となった。選択式の問題において無解答はごくわずかであったが、短答式・記述式の問題で無解答がやや多く見られることから、短答式・記述式の問題に苦手な思いがあったり、解決をあきらめてしまったりしている傾向がみられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

言葉の特徴や使い方に関しては、平均正答率が大阪市平均を上回り、全国平均に近い結果となった。情報の扱い方に関しても、概ね大阪市・全国平均に近い結果であった。一方で、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことについては、大阪市・全国平均を下回った。特に読むことについては、大阪市・全国平均と大きな差があった。

【算数】

データの活用や変化と関係の領域に関しては、大阪市・全国平均を上回った。このことから、国語と同様に情報の読み取り、条件整理などの力が育っていると考える。しかし、無解答率が高いことから理由や根拠、考えを文章で説明・表現することに課題があると考えられる。

質問調査より

自己肯定感の指標となる「自分には、よいところがあると思いますか」の質問への肯定的回答は、大阪市・全国平均とほぼ同水準であった。自己有用感を示す「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問には、大阪市・全国平均を大きく上回る肯定的回答があった。学校が成長できる場所、安心できる場所であると感じている児童が多くいる一方で、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問への肯定的回答は、大阪市・全国平均よりやや低かった。

今後の取組（アクションプラン）

様々な教科・活動の場面で、自分の考えを説明したり、友だちと紹介しあったり、会話だけでなく図やデジタルツールを活用して分かりやすく伝えたりする活動を意図的に取り入れ、表現する機会を多く作る。あわせて、児童個別に異なる課題の解決に向けて、デジタルドリル等の積極的な活用を進めたい。

学校への安心感等のさらなる向上に向けて、特別活動等を土台にして、児童の仲間づくり、集団づくりにもしっかりと注力していきたい。